

令和6年度 相模原市 英語教育改善プラン

目標

新しい時代に活躍できる力の育成
互いの考えを伝え合い、理解し合える英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「Can Do List」形式による学習到達目標の整備状況について、3項目とも増加。

1. 設定

(R4 75.7% → R5 90.1%)

2. 公表

(R4 42.9% → R5 56.3%)

3. 達成状況の把握

(R4 65.7% → R5 71.8%)

②「授業における、児童の英語による言語活動が、授業の半分以上」と回答した学校の割合が増加。
(R4 82.9% → R5 88.7%)

未だ改善が必要な点

①英語教育に関する小中連携の状況について、連携している割合は上昇したが、引き続き改善の余地がある。
(R4 68.6% → R5 77.8%)

②新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合は低く、引き続き改善の余地がある。

2. 要因分析

①相模原市立小学校教育研究会 外国語部会や教育研究員研究と協力して作成したさがみはらスタンダード Can Do Listの活用が、より図られたことが3項目の増加要因と考えられる。

②研修や教育課程研究会、授業力UPシートの発行を通して、「言語活動を通した指導」の重要性を一貫して伝えてきたことが、割合の増加要因と考えられる。

①小学校と中学校間の情報交換や、互いの学校で授業や研究協議を行う交流については実施している学校割合が増加しているため、引き続き改善に努めていく。
(交流 R4 48.6% → R5 61.1%)

②英語コース受検区分を設定したり、1次試験における加点をしたりしているものの、受験者の総数自体が伸びない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①本市が推進するキャリア教育における「小中一貫の日」等を活用し、英語教育においても、より小学校との連携を深めていく。

研修においては、小中の教員が同じ中学校区での協議を重ね、目の前の児童生徒の実態に鑑みた Can Do Listを共有し、小中一貫した英語教育の推進を図る。

②一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組

・1次試験における加点

小学校新規採用者における一定の英語力を有する者の人材確保のため、小学校教諭の区分で受験し、一定の英語力、資格等を有するものについて、1次試験において加点をし、受験者の確保に努める。

・併願制度を実施

大学推薦者は併願制度を利用することができる。
第1希望中学英語、第2希望小学校が可能となる。
加点に追加し、併願制度で選択肢をつくり受験者確保に努める。

③小学校における一定の英語力を有する教員を増やし、児童の英語力向上を図るため、英語専科教員の増員について検討していく。

令和6年度 相模原市 英語教育改善プラン

目標

新しい時代に活躍できる力の育成

互いの考えを伝え合い、理解し合える英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：50.1%⇒R6：52.5%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①全国学力・学習状況調査の教科結果から、全国平均正答率との比較が前回R1調査から上昇し、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」全ての領域について全国平均正答率よりも高い結果となった。

(R1 ±0% → R5 +3.4%)

②CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加し、文部科学省が目標としていた50%へ到達した。

(R4 48.2% → R5 50.1%)

未だ改善が必要な点

①①について「話すこと」については、市正答率が低いことから、さらに伸ばしていくべき力は、言語活動を通じた英語を「話す力」と捉える。

2. 要因分析

①②生徒の英語力向上については、平成30年度から実施してきた市施策の成果として捉えている。

1. ALTの増員
2. さがみはら英語授業スタンダードの作成及び活用
3. さがみはらスタンダードCan Do Listの作成及び活用
4. パフォーマンス評価実践ハンドブックの作成及び活用
5. 英語教育アドバイザーの配置(H30-R2)
6. 小学校外国語教科化に向けた時数の先行実施
7. 外国語教育推進教師研修の実施

①解答の分析から、即興で伝え合うことや、日常的、社会的話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題があることが正答率の低い要因と考えられる。

文法事項の形式や意味の理解に加え、授業等でのコミュニケーション活動時に会話を継続・発展させられるよう取り組むことが重要と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①生徒の英語力、特に「話すこと」の力をさらに伸ばしていくために、ALT派遣事業を柱とした、生徒がネイティブスピーカーと生のコミュニケーションを日常的にできる環境づくりを推進する。

1. 現在のALT活用の見直し
 - (1) Team Teaching シートを通した日本人教員とALTとの連携強化
 - (2) ALTトレーナーが継続的に学校訪問をしモデル授業動画等を活用した研修の実施
2. ALTの授業配置率の向上
ALT活用マネジメントの見直しを通して児童生徒がALTとコミュニケーションを図る機会の充実へ
3. 小学校低学年のALT活用推進
ALTとの低学年授業モデルプランを作成し、コミュニケーションを図る機会の充実へ

以上のALT活用に加え、教員研修や授業力UPシートを通し、「言語活動を通じた指導」の重要性を継続して伝えていく。

目標達成状況一覧表

令和6年度様式（様式2）

相模原市教育委員会

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	51.3	50.1	52.5		53.8		55.0		56.3	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	84	75.0	84		86		88		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	91.7	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	80	75.0		85		90		95	
		達成状況の把握(%)	100	83.3		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	46	48.6	48		50		52		54	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	82	64.8	84		86		88		90	

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	90.1		100		100		100	
		公表(%)	52	56.3		64		76		88	
		達成状況の把握(%)	100	71.8		100		100		100	